

第27回 技術研究発表会のご案内

定員
500名

発表会
参加費
無料

開催の 趣旨

一般財団法人国土技術研究センター(JICE)は、昭和48年(1973年)の設立以来、今年で40周年を迎えます。この間JICEは、高度な建設技術に関する調査研究機関として社会に貢献して参りました。

第27回となる技術研究発表会は、JICEの実施している社会資本整備に係る政策提言等、先進的研究内容や幅広い活動状況等を広く一般の方々に対して紹介する公益事業の一環として開催いたします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

特別講演

「ランドスケープの方法～土木家への提案～」

ニューヨークにあるセントラルパークの設計者オルムステッドは、都市の人工化を予見し、自然共生の環境技術を提唱した。そのランドスケープの考え方、また日本庭園の手法なども紹介し、土木家に提案したい。

東京農業大学 名誉教授 造園家 進士 五十八 氏

記念講演

「社会資本にまつわる7つの誤解・曲解・無理解」

なぜわが国だけが社会資本整備を激減させてきたのか。誤った議論や主張を紹介し、その来たることの根源に迫る。

一般財団法人 国土技術研究センター 国土政策研究所 所長 大石 久和

◆日時

平成25年(2013年)

7月10日(水) 10:00～18:15

◎当日プログラム:裏面参照

18:30～ 交流会

発表会終了後、設立40周年を記念した交流会を開催します。(会費3,000円)

◆参加申し込み

JICEのHP▶ <http://www.jice.or.jp/>

必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

※多数のご来場が予想されますので、参加ご希望の方はお早めにWEBにてお申し込み下さい。

●その他: 本技術研究発表会は、土木学会認定の継続教育(CPD)

プログラムに認定されています。



◆会場

イノホール

東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル4F
TEL 03-3506-3251

- 東京メトロ 日比谷線・千代田線
「霞ヶ関」駅 C3出口 徒歩1分
- 東京メトロ 丸ノ内線
「霞ヶ関」駅 B2出口 徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線
「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分
- 都営地下鉄 三田線
「内幸町」駅 A6出口より
日比谷シティ経由で直結



問合わせ先

JICE 一般財団法人
国土技術研究センター
Japan Institute of Country-ology and Engineering

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-12-1 (ニッセイ虎ノ門ビル)
TEL 03-4519-5006 FAX 03-4519-5016
E-mail gijutu-happyoukai@jice.or.jp

第27回 技術研究発表会プログラム

◆午前の部

10:00～	挨拶	理事長 谷口 博昭
10:05～	JICEの事業概要について	理 事 藤本 保
10:30～	特別講演	『ランドスケープの方法～土木家への提案～』 東京農業大学 名誉教授 造園家 進士 五十八 氏
12:00～13:15 昼食・休憩		

◆午後の部

新しいまちづくりの手法 技術開発と品質確保	13:15～ 伊藤 伸一 都市・住宅・地域政策グループ 首席研究員	官民連携制度を活用したまちづくりの促進 都市再生特別措置法の改正により、道路占用許可の特例等、まちづくりにおける官民連携制度の拡充が図られ、民間が道路等の公共空間を活用するなどによって、にぎわいのあるまちづくりが促進されることが期待されている。本発表では、道路等の公共空間を活用したオープンカフェやサイクルステーション設置等の先進事例の検証から、官民連携制度を活用したまちづくりの効果や実現に向けた課題、その解消方策等について報告する。
	13:40～ 久保田 一男 技術・調達政策グループ 主席研究員	わが国の技術研究開発の推移と今後の動向 平成24年度に策定された国土交通省技術基本計画(第3期)の立案にあたっては、技術に対する社会の信頼を得るため、技術の果たした役割やその効果を把握し、国民に分かりやすく説明するとの視点が必要であった。本発表では、国土交通省の技術基本計画と技術開発の変遷や、技術開発の成果について事例を交えて紹介し、さらに技術研究開発のニーズ、民間の技術開発の方向性等、今後の技術研究開発の動向について報告する。
	14:05～ 山田 武正 技術・調達政策グループ 首席研究員	コンクリート構造物の性能規定による品質確保に関する考察 既存の社会資本が今後急速に老朽化することから、維持管理への関心が高まっている。施設の寿命に対する最も支配的な要因の一つは初期品質であり、土木学会では「コンクリート標準示方書」において、初期ひび割れ、施工性の照査等を充実させている。本発表では、初期品質の確保を効果的、効率的に実施することを目的として、初期ひび割れの実態データの分析等に基づき、今後予想される維持管理・更新時代における品質確保における課題等について報告する。
14:30～14:45 休憩		
災害への備え	14:45～ 佐藤 敦司 道路政策グループ 主席研究員	「伊豆版くしの歯作戦」伊豆地域における道路啓開基本方針 複数の官民関係機関が連携して道路啓開を実施するための共通認識として「伊豆地域における道路啓開基本方針～伊豆版くしの歯作戦～」が策定された。本発表では、想定震度・津波高等から緊急輸送路の被害の分析や、各種計画の防災拠点の整理から最適な配置を示し、協議会等やヒアリングから伊豆固有の課題を明らかにするとともに、伊豆縦貫自動車道の重要性など今後の展開を踏まえて行った策定までの検討内容について報告する。
	15:10～ 柳畑 亨 河川政策グループ 主任研究員	河川堤防の耐震照査手法の改善 東日本大震災では、それまで堤防の被災現象として着目されていなかった堤体下部の堤体内水位以下の砂層(閉封飽和域と称する)の液状化による、広範囲かつ多数の河川堤防被災が見られた。本発表では、「河川構造物の耐震性能照査指針」等で用いられてきた地震時の静的変形予測手法を対象として、実際の被災形状の再現性を満足するような液状化領域設定の考え方や境界条件並びに構成モデルに係る係数の設定などの改善提案の考え方について報告する。
公共事業の投資効果	15:35～ 岸田 真 道路政策グループ 上席主任研究員	移動記録データを用いた新たな道路整備効果評価に関する考察 道路事業の費用対効果分析に用いられる便益の大半は、平均的な旅行時間の短縮効果である。通信カーナビによる大量の移動記録の蓄積により余裕時間算出の実現性が高まっていることから、混雑に備えた余裕時間の短縮効果(時間信頼性向上効果)を評価対象に組み入れることが期待される。本発表では、移動記録データの分析結果や、人流・物流の到着時間制約や出発時間設定に関するアンケート調査結果等をもとに、道路整備にともなう旅行時間信頼性の向上便益を評価する手法について報告する。
	16:00～ 岡部 真人 河川政策グループ 研究員	防災投資効果の評価手法の提案 世界的に大規模な自然災害の多発により、防災対策への投資への重要性が再認識されている。特に、開発途上国では、災害の発生による経済被害が経済発展の阻害要因になっているとの指摘があるが、その因果関係を明確にし、防災投資の効果について説明されている資料は存在しない。本発表では、主に開発途上国を対象にし、防災投資の経済発展への寄与や、貧困の解消への効果を定量的に説明するための経済評価モデルについて、その適用性と今後の活用、展開、課題について報告する。
16:25～16:40 休憩		
16:40～	記念講演	『社会資本にまつわる7つの誤解・曲解・無理解』 国土政策研究所 所長 大石 久和
18:10～18:15 閉会		
18:30～	交流会(カンファレンスルームにて開催) 発表会終了後、設立40周年を記念した交流会を開催します。(会費3,000円)	